

環境報告書 2023



contents

- 2 編集方針
- 3 ごあいさつ / 環境方針
- 4 環境活動の紹介
- 5 環境活動の考え方
- 6 活動トピックス
- 11 フルハーフのばら
- 12 環境パフォーマンスデータ



編集方針

日本フルハーフグループの環境活動に関する考え方や取り組みについて、ステークホルダーの皆さまにわかりやすく報告し、ご理解いただくことを目指しています。それぞれの課題に対する取り組みをご覧いただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間

2022年4月～2023年3月(特に指定がある場合を除く)

対象範囲

日本フルハーフ及び、日本国内連結対象子会社6社(特に指定がある場合を除く)

発行時期

2023年12月(次回2024年11月予定)

お問い合わせ

日本フルハーフ株式会社 環境保全室
〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034
TEL:046-286-8870(直通)
<https://www.fruehauf.co.jp/>

ごあいさつ

2023年版の環境報告書をお届けします。

2020年以降、新型コロナ問題、米中対立、ウクライナ紛争など国際情勢に大きな変化があり、直近では中東情勢の緊迫化など、予断を許さない状況は続いております。



代表取締役社長 田中 俊和

また、原燃料価格の高騰、円安の進行、労務費の上昇などが、当社のビジネスへも大きな影響を与えました。

2023年に入っても、材料価格高騰前の受注が残っていることから、損益的には厳しいものもありますが、サプライチェーンの混乱はほぼ収まり、徐々にお客様に製品をお届けできる状況になるなど、当社にとって非常に厳しかった状況も徐々に回復してきております。

一方、気候変動リスクなどの環境問題への対応は継続的に実行して参りました。

今回、「環境報告書2023」の活動トピックスのコーナーでは、新商品として安定的に入手が可能な「竹ラミネート床材」の標準設定、トラックボデー業界初となるリサイクルアルミニウムで、大型ウイングボデーの水平リサイクルを実現した「グリーンボデー」の開発、そして従業員が日頃取り組んでいる資源循環や水資源保護といった活動などを紹介させていただいております。

また、2023年5月には、ばら観賞会を4年ぶりに開催し、10月には創立60周年を迎えました。

日本フルハーブグループは、挑戦者として新しい風を取り入れ、信頼される企業を目指し、日本フルハーブらしい社会貢献活動を続けていきます。

環境方針

日本フルハーブは、地球環境に優しい技術を常に追求すると共に、環境保全を十分に意識したトレーラ、バン型ボデー等の生産活動等を通じて、環境保護に率先して取り組み、豊かな社会の実現、維持に貢献します。

1. 環境に優しい製品の提供

生産活動、ならびに製品の提供においては、その環境課題に積極的に、且つ継続的改善をもって取り組むと共に、環境負荷の低減をめざし汚染の予防に取り組みます。

2. 環境保全の推進

全ての事業活動において、法規制の順守はもとより、社会の要求事項にも積極的に応え、環境保全活動に取り組みます。

3. 環境を配慮した事業活動の実現

全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、グリーン調達、リサイクルに取り組み、さらには、これらを見直すことにより、かぎりある地球資源の保護に取り組みます。

4. より良い環境活動の実現

日本フルハーブ、及び関連会社全従業員が、地球環境保護の大切さを認識・自覚するよう、啓蒙活動に取り組みます。また、社会との調和・共栄をめざし、事業活動以外での環境活動にも取り組みます。

5. 環境方針の公開

本環境方針は、社外の要求、その他の必要に応じて一般に公開します。



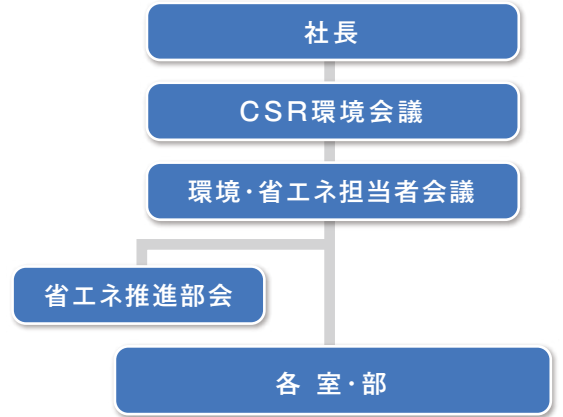
環境活動の紹介

環境推進体制図

環境経営に関する活動方針は、社長、役員、各室・部から構成される「CSR環境会議」で審議・決定されます。

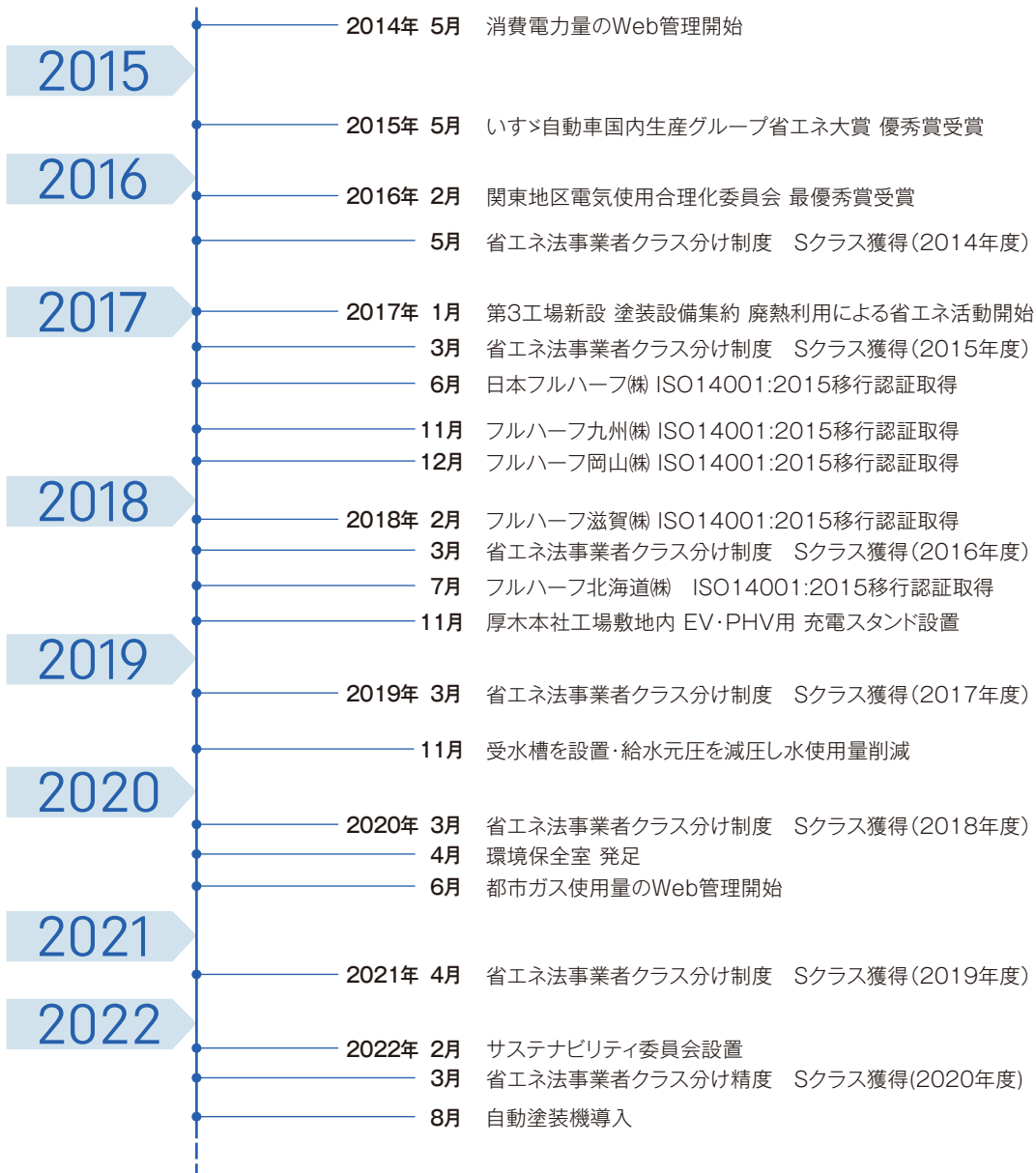
活動方針を基に、各室・部が環境保全について取り組み計画を設定し、実行できることから少しずつ活動をしています。

各室・部には「環境・省エネ担当者」を置き、「環境・省エネ担当者会議」で議論することで活動推進のヒントにしています。その活動はエネルギー管理士を中心とする「省エネ推進部会」からエネルギー使用量の報告、エネルギー有効活用の提言があり、環境活動がより有効になるように工夫しています。こうした活動成果は、「CSR環境会議」でレビューされ、成果が出ているか確認し、今後の進め方について決定されます。



環境活動の沿革

※社名記載のないものは日本フルハーブ㈱を示す。



環境活動の考え方

世界は、以前より地球環境の変化に伴う社会への影響が議論されてきました。ここ数年は毎年のように世界各地で洪水被害や森林火災、食物の不作などが報告されています。これらは地球温暖化が原因と考えられています。これらの問題の程度は年々深刻さを増しています。

これらの問題は、私たち日本フルハーフグループも影響を及ぼし、また及ぼされているものです。このまま何もしないと、私たちの社会生活が維持できない、ひいては事業活動が存続できないといった事態になりかねません。私たちは「環境課題は私たちの課題」と認識しています。以下3つを「共通テーマ」と設定し、改善となる活動を、国内全グループで展開しています。



気候変動対応

日本フルハーフグループは、製品の生産に関わる活動の温室効果ガス排出量は把握しています。今後商品を社会に生み出す責任から、製品ライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量を把握するところからはじめ、影響が大きいところは何かを見極めます。

そして、商品の開発から、生産、普及、廃棄に至るまでの間に、直接温室効果ガス排出量を減少させる活動に取り組みます。同時に、自然環境保護などの活動にもチャレンジします。



資源循環

日本フルハーフグループは、製品の生産に関わる活動の廃棄量は把握しています。今後はレベル1として、分別や歩留まり改善活動をこれまで以上に進めること、また処理をいただく事業者の技術を見極め、廃棄物が再資源化される余地を拡大していきます。

またレベル2として、開発段階などでの設計や材料見直し、製造段階などでの材料の再利用で排出量そのものを減らす活動、また使用された商品が再利用・再生部品となる活動にも取り組みます。

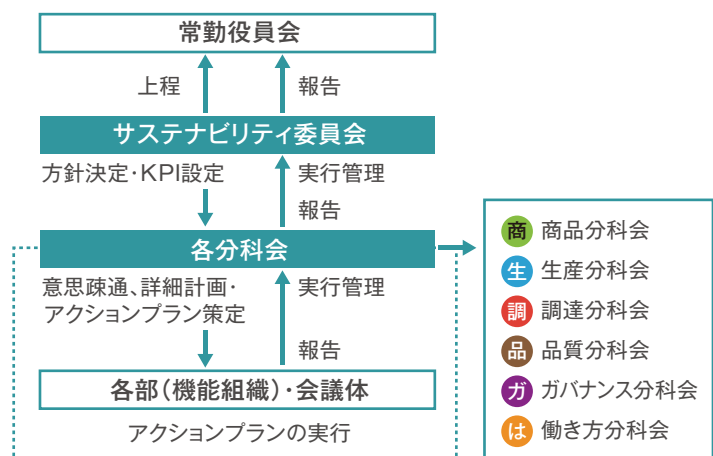


水資源保護

日本フルハーフグループは、事業所毎の水使用量は把握しています。今後は水資源について限りあるものと認識し、水使用量を減らす取り組みを検討します。また使用した水をきれいにして還す、また再利用できる余地はないか検討します。

サステナビリティ委員会の設置

日本フルハーフグループは100年に一度といわれる自動車の変革期を乗り越えるために、さまざまな対策を始めています。その一つとして中長期の課題解決のため、2022年2月1日にサステナビリティ委員会を設置いたしました。これからの世の中で当社が今後も生き残っていくためには、サステナビリティの考え方を経営レベルで取り込み、事業活動にもその重要な機軸の一つとして反映することが求められています。そしてこれらの考え方に基づいて経営戦略を立案し、事業活動を行うに当たっては全社横断的な機構が必要と判断したためです。これらの活動を通じて、「お客さまの想いをハコビ」、また今後の脱炭素社会の社会実現への貢献などを図っていく予定です。



自動塗装機の導入によるエネルギー使用量削減 〈厚木工場 製造第二部 塗装・フレームグループ〉



気候変動対応

2022年8月厚木本社工場内第三工場では、環境面や従業員の職場環境についても負荷の高い塗装工程において自動塗装機を導入しました。

従来作業員が行っていた工程の大部分を自動塗装機で完了することができるようになりました。補正・修正などの塗装時間も大幅に減り、従来より年間で422時間の作業時間が削減されました。

その結果、乾燥炉やボイラーのガス使用量を年間で約61,000㎡削減、CO₂排出量では136ton削減することができました。

自部署の環境目標である「エネルギーを削減して、地球温暖化防止に努める」に大きく貢献することができました。



コンプレッサー更新に伴うエネルギー使用量の最適化 〈厚木工場 保全部〉



気候変動対応

2021年度より2028年度までの8年間で9台のコンプレッサーを順次更新していきます。更新にあたり工場の要求するエア量を随時監視し、適切なコンプレッサーの運転に調整します。エンジン式から電動化への移行も合わせて行い、8年間トータルで年間227tonのCO₂削減を見込んでいます。2022年度は1機をインバーター式に更新し、エア量を調整することで、CO₂削減量は年間で25ton(生産量に準じて増減あり)を見込んでいます。

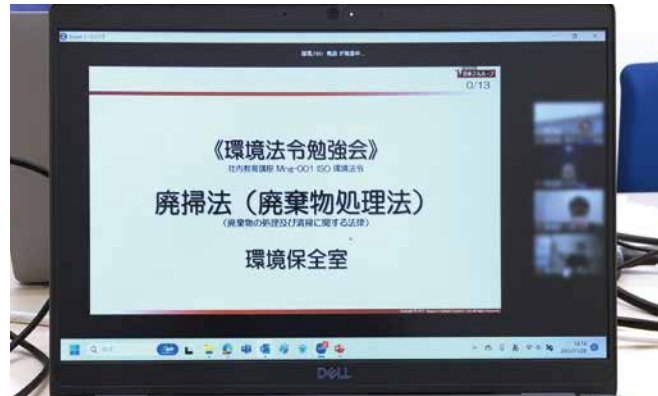


社内教育の場として環境法令勉強会の実施 〈厚木工場 厚木総務室 / 環境保全室〉



資源循環

2021年より環境法令勉強会を環境担当者やISO内部監査員向けに年2回開催しています。リモート開催により気軽に参加でき、毎回100人前後の参加があります。2022年12月に実施した第5回勉強会では、「循環型社会に関する法令を学ぶ」として、廃棄物処理法とプラスチック資源循環法に加え、産業廃棄物処理担当部署による廃棄物削減・分別・処分に関する教育を行いました。自社のごみ・資源の出し方のルールを理解し、守り、資源循環・有効利用を進めていくことの重要性を学び、各部署に持ち帰り展開しています。



食堂の食品サンプルを電子化 〈厚木工場 厚木総務室〉



資源循環

従来サンプル用メニューの現物を、1日4種類3カ所に置いて、利用時間終了後に廃棄していました。2022年11月より、厚木工場食堂の2カ所に使用頻度の減ったテレビ会議用モニターを利用したサイネージ方式を導入しました。

この方法により、食品ロスを削減することができました。



食堂から廃棄される調理くずの一部を 従来の焼却処分からバイオエネルギー化へ 〈厚木工場 厚木総務室〉



資源循環

2022年11月より厚木市主催「生ごみの資源化事業」に参加し、年間約12t焼却処分されていた食堂から廃棄される調理屑や残飯をリサイクル施設でメタン発酵処理し、バイオエネルギー（電気）としてリサイクルすることができました。



活動トピックス

井戸水の有効利用〈フルハーフ九州〉



水資源

今まで水道水を利用していたシャワーテスト※や、ばらの散水を、水道水から井戸水へ変更しました。シャワーテストはさらに雨水も利用しています。また、熱暑対策として、屋根に井戸水を散水することで気温を下げるようにしました。その結果、5℃の低減効果がありました。今後もさらに井戸水を有効利用できるよう検討していきます。

※シャワーテスト：架装ボディの浸水を検査する試験



排出する雨水の水質監視〈厚木工場 保全部〉



水資源

雨水は下水処理施設などの浄化施設を経由せず、直接、相模川に放流されますので、雨水と一緒に流れてしまう工場の通路や側溝に付着した油分などを分離するため、各雨水路出口にはトラップ付きの油水分離槽が設置されています。

工場では万が一、漏洩事故などが起こった場合に備えており、油水分離槽は構外へ出る前に回収する堰所となります。

また、定期的に油水分離槽の監視（水質調査）・清掃を実施し、工場から排出する雨水の監視を行っています。



食堂排水の浄化〈厚木工場 保全部〉



水資源

食堂で利用した排水は厚木工場内に設置している処理施設を利用し浄化しています。

微生物を含んだ処理槽に食堂排水を貯め、空気を供給することで有機物を分解処理しています。

微生物が有機物を分解したのちに汚泥が発生しますが、その汚泥を微生物がさらに分解し、浄化された処理水のみ下水道へ排水しています。

下水道を通った処理水は水再生センターまで流れ、さらに浄化したのち、相模川へ放流します。水再生センターでよりきれいな水として相模川へ排水されます。



環境に優しい製品の取り組み



気候変動対応

竹ラミネート床材

従来木材と比較して、環境保全、品質に優れ安定供給可能な床材

《対象車型》・ドライバン / ウィング / 温度管理車(ドライ仕様)

現在ドライ系の車に多く装着されている木材フロアリングについて、当社は床材の安定供給、環境対応、より付加価値の高い床材の提案を目的として竹ラミネート材を新たに標準設定し、切り替えを図っています。

- 竹のメリットである成長スピードが速い為、安定的に供給出来る
(商品化までの期間 竹:5年、アピトン:80年、アカシヤ:15年)森林破壊を抑制し環境保全に貢献。
- 伸縮・膨張・経年劣化が少ない為、長期使用に優れている。
- 繊維がしっかりしている為、長手方向に対する剛性が高く割れづらい。
- 素材自体が硬い為、衝撃に強く、加えて強度均一性がある。
- ジョイント部の強度があり、安定している。
- ヤニがほとんど出ない。
- 綺麗な仕上がり、庫内雰囲気が明るくなる。

[参考写真]



一般社団法人日本自動車車体工業会「環境基準・新環境基準適合ラベル」

「環境基準適合ラベル」「新環境基準適合ラベル」とは、一般社団法人日本自動車車体工業会が制定した、使用済み架装物の解体作業の容易化を図り、再生資源の利用や適正な処理を促進する“環境にやさしい車体”であることを証明するものです。商用車架装物に関する自主取り組み項目を定め、その内容を満たす商用車架装物には、それぞれのラベルを貼り付けています。



環境に優しい製品の取り組み



気候変動対応

グリーンボデーの開発

トラックボデー業界初!

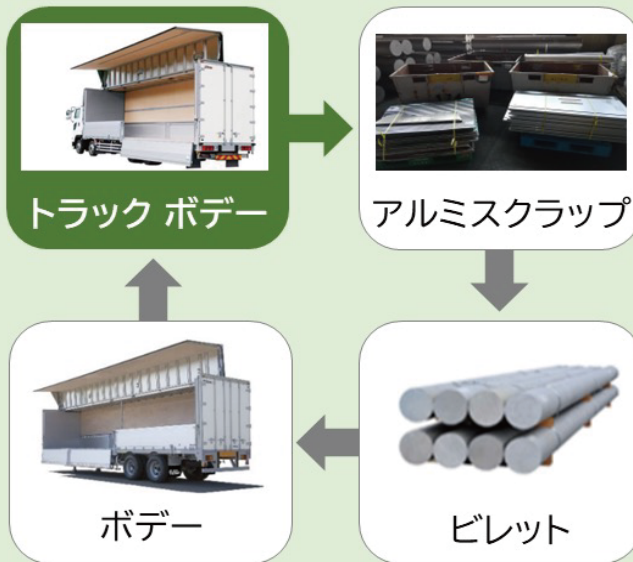
リサイクルアルミニウムで大型ウイングボデーの水平リサイクルを実現した「グリーンボデー」を製造。
CO₂排出量約8割の削減に成功。

当社では、お客様の「環境ニーズ」にお応えすべく、アルミニウムメーカーである日本軽金属グループと協力して、トラックボデー業界初となるリサイクルアルミニウムを用いて大型ウイングボデーの水平リサイクルを実現した『グリーンボデー』を製造しました。『グリーンボデー』は、ウイングボデーの「サイドパネル」「アオリ」「リアドア」「ルーフ」等の大型部材をリサイクルアルミニウム100%で製造することで、ウイングボデー1台の製造におけるCO₂排出量の約8割を削減しています。



従来の大型ウイングボデーではアルミニウム材料の製造工程にて1台あたり約9.2トンのCO₂を排出していましたが、リサイクルアルミにすることにより1.4トンのCO₂排出にとどめることができ、7.8トンのCO₂排出量の削減が実現しました。

また、今後のトラックボデーへのリサイクルアルミの使用については、置き換え可能な部材から製品に採用できるよう検討を進めています。



1台当たり
7.8t-CO₂削減

フルハーフの ばら



第36回 4年ぶりのばら観賞会、規模を縮小しての開催

5月14日、厚木本社工場にて4年ぶりに開催し、約5千人の方々にご来場いただきました。人気のフォトスポットでは、ご家族連れやご夫婦、ばら愛好家の方など沢山の方々が思い思いに撮影されておりました。また「フルハーフフォトコンテスト」を開催し、今回よりインスタ部門を新設しました。カメラ部門での受賞作品は2024年の卓上カレンダーに掲載し活用いたします。なお、公式Instagramにはインスタ部門受賞結果を発表しています。（※QRコードを以下に掲載）今回は規模を縮小しての開催でしたが、「久しぶりの開催で大変うれしい」などの多くの感想を頂きました。

今後も皆さまに喜んでいただけるよう活動を続けて参ります。



ばらの公式Instagramの運営を開始

“フルハーフのばら”を通して、世界中の人々にフルハーフを知ってもらい、地域共生社会の実現につなげたいという想いからフルハーフ公式Instagramの運営を開始しました。フルハーフのばらに関する情報をたくさん紹介しています。



【日本フルハーフ(公式)】 【フルハーフのばら図鑑】



ウイング車 製造ライン見学

厚木工場にて小学生の工場見学を実施

2022年12月、近隣の小学校5年生を約100人お招きしました。物を運ぶ重要な役割を果たす「トラックボデーがどのように作られているのか」をテーマに厚木工場内を見学し、その後には、トラックの転倒角度試験の動画を紹介しました。大きなトラックが傾いてゆく迫力の映像に、児童の皆さんから驚きの歓声があがり、終始興味津々な様子で大盛り上がりでした。従業員からも「自分たちの仕事に誇りを持てる素晴らしい機会となった」などの声が挙がり、貴重な経験となりました。

丹沢の森林再生活動をボランティア継続

毎年4月と10月にNPO法人 丹沢自然保護協会主催の植樹活動に社内ボランティア活動として参加しています。

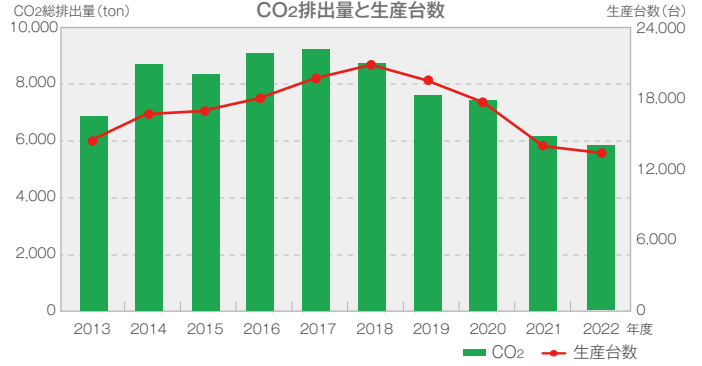
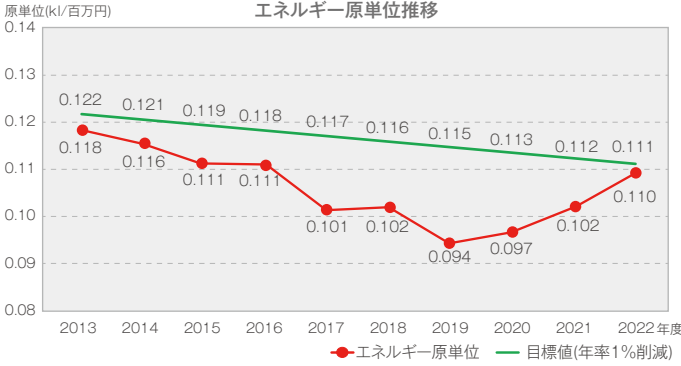
弊社近隣の森林を育成し相模川水系の水源を保護するために、今後も継続して取り組みます。



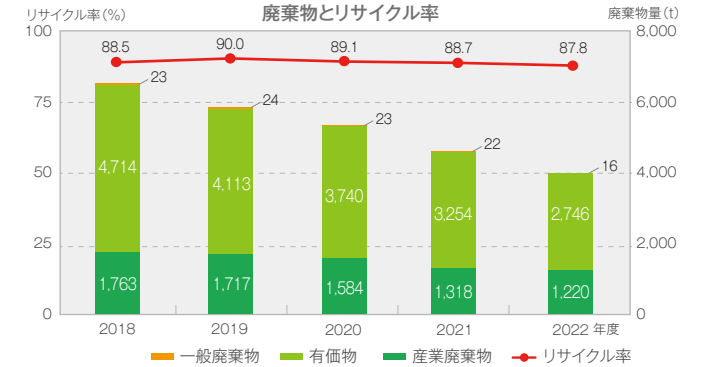
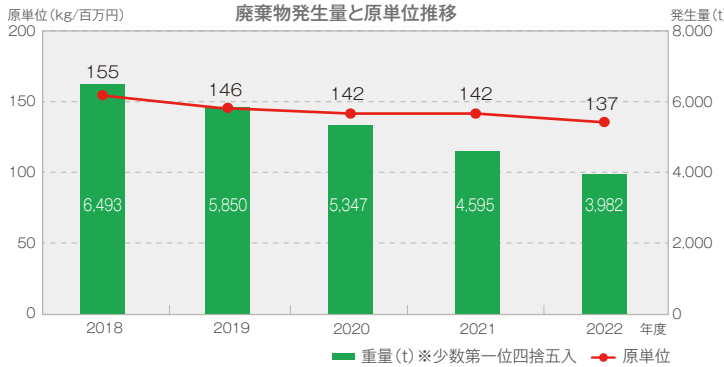


*本ページのデータは全て日本フルハーフ様の活動

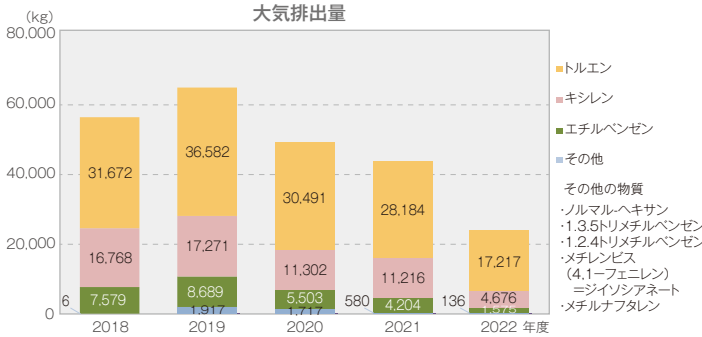
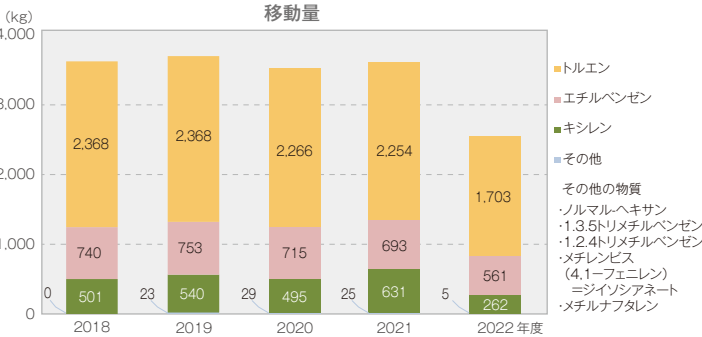
■エネルギーとCO2



■廃棄物



■化学物質管理



■環境保全コスト

分類	2021年度		2022年度		主な内容
	投資額	費用額	投資額	費用額	
(1) 事業エリア内コスト	92.4	150.5	32.4	143.3	—
内訳 (1) -1 公害防止コスト	28.9	15.0	4.7	22.6	排ガス処理施設
(1) -2 地球環境保全コスト	63.5	17.7	27.7	16.7	省エネ・燃料転換等、フロン排出抑制
(1) -3 資源循環コスト	0.0	117.8	0.0	104.0	産業廃棄物量削減
(2) 上・下流コスト	0.0	0.0	0.0	0.0	—
(3) 管理活動コスト	0.0	32.1	7.6	32.6	ISO維持、事業所内緑地整備
(4) 研究開発コスト	0.0	58.4	0.0	39.1	環境配慮製品開発
(5) 社会活動コスト	0.0	0.9	0.0	0.3	ローズモータブの清掃
(6) 環境損傷対応コスト	0.0	0.0	0.0	0.0	—
合計	92.4	241.9	40.0	215.3	